

古代人の遺産を守る

チャーリー・ポーター



© AP Images/Durango Herald, Nancy Richmond

コロラド州のメサベルデ国立公園を訪れた人たちは、12世紀末から13世紀にかけて古代プエブロ人が崖を利用して建てた住居跡を通して歩く。同公園の4000に上る考古学的遺跡は先史時代の人々が700年にわたって北米大陸に住んでいた証である。メサベルデは米国内にある世界遺産登録地のひとつでもある。

国立公園局は、古い時代の記念物の保存およびその一般への公開とともに、そうした活動に関する知識の外国との共有を図っている。

チャーリー・ポーターはEジャーナル本号の副編集長である。

米国の国立公園の顕著な特徴は、その壮大な自然景観だが、数千カ所に及ぶ先史時代の遺跡も国立公園制度の下にある3400万ヘクタールの土地の一部である。これらの遺跡は、ヨーロッパからの入植者が「新大陸」の発見を宣言し国家を創設するずっと前に、この地に居住していた人々の生活を思い起こさせるものである。

国立公園局は、今日のアメリカ・インディアン族の祖先によって造られた古い時代の人工物や建築を、自然がつくりだした景観や米国の「建国の父たち」が植民地を国家として独立させる計画を練った歴史的な場所と同様に、重要視している。

連邦議会は1906年、考古学的な遺跡を国家の政策として



© AP Images/Paul Connors

1892年に米国初の考古学的保存地区に指定されたカサ・グランデ遺跡。ホホカム族インディアンによって約700年前に築かれた同遺跡は、北米大陸における先史時代の最大建造物のひとつ。1930年代に保護のための覆いが立てられた。

将来に向けて保存するための法律を制定した。実際、「遺跡保存法 (Antiquities Act)」と呼ばれるこの法律は、公園、記念物、遺跡などの管理を国立公園局に統合した1916年の法律に先立って制定されている。国立公園局の主任考古学者であるフランシス・P・マクマナモンによれば、遺跡保存法は「これらの考古学資源と史跡は保護されるべきであり、金銭的な利益や個人的な気まぐれ、あるいはその場所に何か別のものを建築する必要があるなどという理由で、利用されてはならない」という考え方を法律として定めたものである。

この法律を制定しようという機運は、入植者たちの米国南西部への移動開始に伴って、同法が成立する20～30年前から高まり始めていた。南西部にはそれより数百年前にアメリカ・インディアンが築いた日干しレンガの建物や集合住宅が散在していた。こうした建物を古い時代の文明が生んだ偉大な人工物と評価する人がいる一方で、使用可能あるいは販売可能な材料の採掘場と考える人もいた。

20世紀初頭には、植民地あるいは連邦政府と北米先住民族の間の「インディアン戦争」の記憶が生々しく残っており、ア

メリカ・インディアンは日常的な差別に苦しんでいた。こうした事実と遺跡保存法が成立した時期が一致することは「特筆すべき」ことだと、マクマナモンはEジャーナルとのインタビューで語る。

「古い時代の記念物や遺跡を保存する取り組みが行われるのと同時に、それをつくった人々の子孫はその文化が残したものを制度的に奪われていた」とマクマナモンは言う。部族グループを伝統的な居住地から移動させ、アメリカ・インディアンの遺産を子どもたちの学校教育から一掃するというのが当時の政府の一般的な政策だった。

公園における考古学

国立公園局は現在、同局が管理する記念物・公園地域内の約7万カ所の考古学的遺跡について記録をまとめている。マクマナモンの推計によれば、さらに数万あるいは数十万の遺跡が発見されるのを待っているという。数百年あるいは数千年前の遺跡の保存は、それ自体やりがいのある仕事だが、

一般の人々がそうした遺跡を見学し、理解し、評価できるようにすることも国立公園局の任務であること忘れるわけにはいかない。

マクマナモンは岩窟居住民の集落と集合住宅について、観光客などが訪れて見て回るため「もともとの建物が傷まないように石や日干しレンガの壁の一部を安定させる必要がある」と言う。そのためには、残っている日干しレンガを保護することが必要で、保存専門家は建物を最初に建てた人たちが使った材料に似た、土を基本とするモルタルと、表面に塗るしっくいを開発しなければならない。

こうした取り組みは、多くの場所で記念物や建物、像などの修復管理に当たっている専門家にも共通する課題である。マクマナモンと、彼の国立公園局の同僚である考古学者のテリー・チャイルズおよびバーバラ・リトルは、アフガニスタンの記念物管理者の一行が2007年、考古学や歴史にかかわる公園・遺跡の同局の管理慣行を見学するため米国を訪れた際、同じ専門分野の共通の課題について新たな洞察を得た。

米国の多くの記念物や歴史遺産と同様に、アフガニスタンの遺跡も砂岩や花こう岩、日干しレンガでできている可能性がある。アフガニスタンの管理者たちは、記念物の安定化を図るのに適した物質を選ぶのに必要な材料科学技術について話し合うのに意欲的だったとマクマナモンは言う。

彼はまた、情報交換を通じて、米国が長年にわたって犯してきた過ちのいくつかをアフガニスタン側が避けることができればよいと考えている。「我々は20世紀初めの安定化プロジェクトに使われた不適切なモルタルを抜き取る作業をしている。それをもっとやわらかく、もともとの日干しレンガと石を保存するのに役立つ、土を基本とするモルタルに置き換えている。この分野では、アフガニスタンの専門家も我々の現場チームと同じように学習し、同じような関心を寄せている」

地域社会の教育

アフガニスタンの専門家たちはワシントンにある記念物や史跡を訪問した後、米国国務省内にある「文化遺産センター」後援の研修プログラムに参加して、南西部の国立公園局のユニットで8週間過ごした。アフガニスタンにおける文化の保全を支援するため、2007年の研修プログラムでは地域社会との関係や公教育に関する助言も行われた。

国立公園局が管理する400近い公園、記念物、その他の場所は、環境や条件が大幅に異なる米国各地の地域コミュニティにあり、同局は長年の活動を通じて、公園幹部と地域関係者との間に緊密かつ協力的な関係を築くことが現場管理の重要な要素であることを知っている。

教育もそうした関係を築く上で重要な要素であり、公園幹部が地域社会と協力して学童や関心を寄せるグループを公園施設に呼び込むことは標準的なやり方である。「アフガニスタンから来た人々にとって、これは一種の啓示のようなものだった」とマクマナモンは言う。

「彼らがツマカコリ（17世紀末にスペイン人によって創設された伝道施設の遺跡）を訪れていた時、学童のグループが見学旅行にやってきて、レンジャーの解説を聞きながら中庭を歩き回っていた。彼らはこれを素晴らしいことだと考えた」とマクマナモンは語る。彼らのひとは同じような教育プログラムをバーミヤン渓谷にも導入したいという希望を述べた。バーミヤン渓谷の2体の巨大な石仏は2001年にタリバーンによって破壊された。しかし、同渓谷がかつてアフガン北部を走るシルクロードの重要な目印の役割を果たしたことを今に伝える証として、現在も国際的に認められた文化遺産である。

アフガニスタンからアリゾナ州まで、歴史遺産は将来のすべての世代が過去の生活や文化を理解するのに役立つ重要な手段である、とマクマナモンは言う。実際の場所、建物、そして過去の生活や出来事が生み出した事物を自分で直接経験する機会を与えられることによって、若者は過去に対する理解と認識をより一層深めるだろう。

人類全体の遺産



ペルーのマチュピチュ遺跡は、標高2000メートルを超える山頂にあり、最盛期のインカ帝国によって15世紀に建設された。1983年に世界遺産リストに加えられた。

ペンシルベニア州フィラデルフィアにある18世紀の歴史的建造物の独立記念館（インデペンデンス・ホール）と、海洋生物が群がるオーストラリアのグレート・バリア・リーフ。この2つが共有するもの何だろうか。アラスカのグレイシャー・ベイ国立公園の氷に覆われた峰々やツガ林と、カンボジアのアンコールワット遺跡の古代寺院と霊的な存在との間にはどのようなつながりがあるのだろうか。

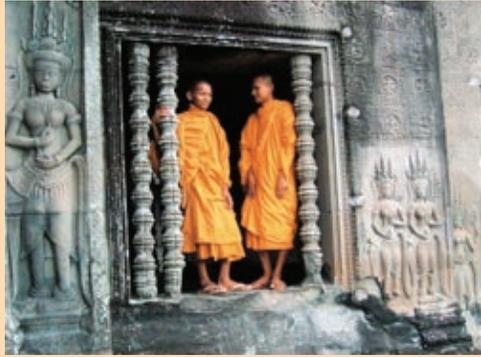
これらはいずれも世界遺産に指定されており、人類共有の自然および文化の継承という観点から際立って重要な意義を持つ場所である。世界遺産リストには現在875カ所以上が登録されている。同リストの管理は、185カ国によって承認された世界遺産条約に基づいて行われており、自然・文化遺産保護のための国際的に最も広く認められた手段となっている。

米国には世界遺産登録地が20カ所あるが、このうち17カ所が国立公園制度の一部であり、世界遺産関連事項については、国立公園局の国際部（Office of International Affairs）が米国政府に対して技術的な助言を行う。米国内の世界遺産登録地には、イエローストーン国立公園、グランドキャニオン国立公園、自由の女神像など人気の高い名所のほか、イリノイ州のカホキア墳丘州立遺跡（先史時代のアメリカ・インディアンの町）やタオス・プエブロ（15世紀以前にアナサジ族のインディアンによって建設され、現在も使われている共同住居）などそれほど知られていないものもある。

世界遺産条約のアイデアは、ニクソン政権が1971年行った提案に由来する。リチャード・ニクソン大統領は、この構想は米国で生まれた公園のコンセプトを地球規模で示したものであると説明し、同政権の環境政策に関するステートメントの中で「世界全体から見て特に価値が高く、したがって、人類全体の遺産の一部として扱われ、世界遺産基金の一部として認められるべきものがあるという原則に、世界各国は1972年までに合意することが適切であろう」と述べた。

1972年にストックホルムで開かれた国連人間環境会議で、米国代表団はこの世界遺産条約のコンセプトを提出し、同条約は、その後、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の総会で採択された。

ストックホルムの会議では、ニクソン政権で「環境の質に関する諮問委員会」の委員長を務めたラッセル・E・トレインが米国を代表して提案を行い、ユネスコの主導による同条約の創設に重要な役割を果たした。トレインは、世界



© AP Images/Suzanne Plunkett

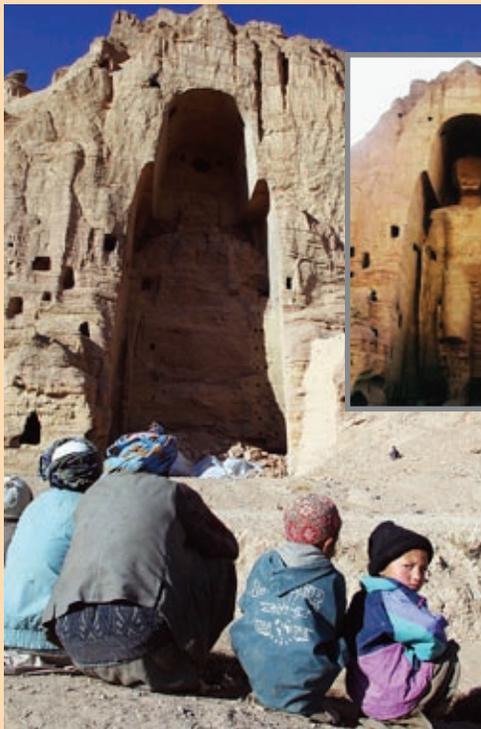
カンボジアのシムレアブ郊外にあるアンコールワットの仏教僧。アンコール考古学公園には、クメール帝国（9～15世紀）の異なる首都の遺跡がある。1992年に世界遺産登録。

遺産条約締結30周年にあたり、同条約は「人類と環境の間、および自然環境と人間が作り出した環境の間には、欠くことのできない相互関係があること」を認めるものと述べた。

同条約によって認められた多様で広範囲にわたる世界遺産は、人類全体の遺産と考えられるが、それを推薦した国の管理下にある。条約に加盟するに当たり、各国は世界遺産リストに登録されたたぐいまれな場所の管理者として、「その保護のために協力することは国際社会全体の義務である」ことを誓約する。

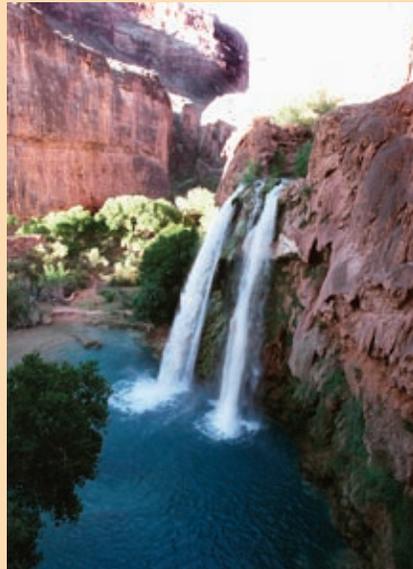
国立公園局および魚類・野生生物局、森林局など他の米国政府機関は、ガラパゴス諸島やタージマハールからロシア・カムチャッカ半島の火山まで、全世界の数百の世界遺産を保護するため、条約参加国と協力してきた。

フランスの港湾都市ボルドーの「月の港」はごく最近登録された世界遺産のひとつで、2000年にわたって文化交流をはぐくんだ、現在も人が住んでいる歴史的な都市である。韓国の「済州（チェジュ）火山島と溶岩洞窟」も2007年に世界遺産リストに加わった。世界遺産条約の文書によると、この地域には世界で最も素晴らしい溶岩洞窟系があり、火山活動の科学的理解に大きく貢献したという。



© AP Images/Brennan Linsley

アフガニスタンのバミヤン渓谷にある石仏は（挿入写真）は世界最大の仏像だったが、2001年にタリバンにより破壊された。断崖の遺跡に彫られた大きな穴（左）は、ここにこの像を築いた文化があったことを示す証である。



© AP Images/Bob Daugherty

ハバス・クリークの水は、70メートル落下して、グランドキャニオンのふもとにあるハバスパイ先住民居住区に流れ込む。

キング牧師が立った階段の上で

マリサ・リチャードソン



軍人の家族の一員として、私は世界中を旅行した。1980年代中頃には、ワシントンD.C.の郊外で3年間暮らした。ワシントンへ行き、リンカーン記念館を訪れたときのことを鮮明に記憶している。それから早くも20年余り、朝鮮戦争戦没者慰霊碑、フランクリン・D・ルーズベルト記念公園、第2次大戦記念館がワシントンの風景に加わった。私はリンカーン記念館の階段の上に解説担当のパークレンジャーとして立っている。学童たちがマーチン・ルーサー・キング牧師の「私には夢がある」という演説を再現するのに見入っている。キング牧師が40年以上前にその演説した場所だ。子どもたちが過去と現在の間の隔たりを埋めるのに、私がささやかながら役立っていることを誇りに思う。

私は自分がこの仕事をしていることにびっくりしている。私は放送の仕事に入るつもりで、ジョージ・メイソン大学で英語とコミュニケーションを学んだ。しかし、ある夏、ワシントンのナショナル・モールと記念公園で、臨時のパークレンジャー

をしたことですべてが変わった。私は野外にいること、米国各地や世界中からやってくる人々と交流することが好きだった。訪れる人に見学プログラムを提供することは、たいへんやりがいのある仕事だ。というのも、それは彼らがこの場所に対する知的、情緒的な結びつきを形づくるのを手助けすることだから。

私の仕事で最もうれしいことは、訪れた人たちの言うことに耳を傾け、彼らから学ぶことだ。第2次大戦記念館では、戦争に従軍した人たちの経験をじかに聞き、第2次大戦に対する自分の識見を豊かにすることができる。パークレンジャーは多様な仕事をすることができる。私はそれが好きだ。ある日、見学にきた生徒たちに対する解説をしたかと思えば、翌日は「桜祭り」の計画作りを手伝ったり、南北戦争に従軍した黒人兵の記念碑に関する解説展示のデザインを考えたり、というわけだ。私の仕事は世界で最も素晴らしい仕事だと、見学者の多くが言ってくれる。「その通りです」と私は答える。

マリサ・リチャードソンは、ワシントンD.C.にある「ナショナル・モールおよび記念公園」の解説・説明担当パークレンジャー。本稿はもともと、アメリカン・パーク・ネットワークのワシントンD.C.「ナショナル・モールおよび記念公園」の案内に掲載されていたものである。国立公園に関する詳しい情報はOhRanger.comを参照されたい。